

令和5年4月～令和6年3月 いきものガイドウォーク(全10回)

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
4	22	二宮 芳野	<p>テーマ：「新緑の木と花」 天候：曇り 参加者：15名</p> <p>昨日の暑さにとって変って、曇りで肌寒い朝でした。 それでも、航空公園には多くの来客者がいました。 南駐車場は満車で入れず、東駐車場に止めることに成りました。 二宮氏の名解説で、ノダフジ、ミズキ、イチョウ、ユリノキを解説、ギョイコウは半分くらい花卉が落ちていました。その後、日本庭園に行き、筍に養分を捕られた竹が茶色に色付いていました。 「竹の秋」の季語を説明いたしました。少しハードな行程でしたが、皆さんに満足して頂けたようです。</p>	 <p>野田藤</p> <p>「のだふじ」は今から約600年前からその美しさで知られ、室町幕府二代将軍・足利義詮（よしあきら）が詠んだ歌が有名で野田（大阪市福島区）の地名が全国的になったと言われています。「吉野に桜・野田の藤・高雄の紅葉」は三大名所と言われます。樹齢1200年を超え、天然記念物に指定されている埼玉県春日部市の「牛島に藤」もよく知られています。</p>	 <p>イチョウ</p> <p>イチョウ科イチョウ属の落葉樹。秋の紅葉や茶碗蒸しに使う銀杏で馴染み深く、公園、学校、街路、社寺等に植栽される。約2億年前の中世代ジュラ紀に栄え、現在まで種を絶やさずに続く歴史の長い木だが、その仲間の多くは恐竜と共に氷河期に絶滅し、現在のイチョウ科の木はこれしかない。このためイチョウはメタセコイヤと共に「生きて化石植物」と呼ばれます。</p>	 <p>コース図</p>
5	27	佐藤 渡辺	<p>テーマ：公園を彩る自然の『色』～色にまつわる色々な話～ 天候：晴 参加者：9名</p> <p>彩り多いこの時期、テーマを『色』に設定。色の見え方、色素、色素の役割、色素の利用（染料）などについて植物を観察しながら解説しました。 <観察した主な植物> ヤマグワ、サツキ、ピラカンサ、モッコク、ミズキ、ヤマハゼ、アジサイ、ヤマボウシ、サンゴジュ、クチナシ、ヤゼウツボ、シャリンバイ、ヤグルマギク、ラベンダー、セキショウ、シラカシ、スダジイ</p>	 <p>葉っぱはなぜ緑色？（写真はトチノキ）</p>	 <p>自然界では何色の花が多いでしょう？（写真はヤマボウシ 花びらに見えるのは苞）</p>	 <p>今日歩いたコースは・・・5月27日(土)</p>

令和5年4月～令和6年3月 いきものガイドウォーク(全10回)

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
6	24	松本 河野	<p>テーマ：目指せ、万太郎！ 牧野富太郎博士の貢献を知る 天候：晴れ 参加者：7名(1名はFIS)</p> <p>NHKのTV小説「らんまん」にあやかり、牧野博士の功績や新種登録した植物や命名した植物を一部紹介しました。 博士が命名したノダフジとヤマフジのツルの巻き方からからはじまり、ネジバナの右巻き左巻き、今年3月に新種発表されたハチジョウネジバナの解説を行いました。</p> <p>ハスはまだ咲いていませんでしたが、日本庭園ではスイレンとコウホネが観察できました。アジサイはシーボルトがつけた学名にある「オタクサ」のエピソードを紹介しました。 最後に庭園内のヤブレガサモドキで締めくくりました。</p>	 <p>アジサイの仲間 (アジサイ科アジサイ属)</p> <p>この時期の花といえばアジサイです。アジサイの学名には「otaksa」の記載があります。かつては日本の地方名とも考えられていたそうですが、今ではシーボルトが妻の「お滝」さんを偲び、献名したと知られています。この事実を突き止めたのが牧野富太郎博士とされています。</p>	 <p>ネジバナ (ラン科ネジバナ属)</p> <p>ネジバナは明るい草地や、プランターからも生えてきたりと、可愛い身近な植物です。実は最近になり、身近なネジバナには2種類(ネジバナとハチジョウネジバナ)あることがわかりました。このように、牧野富太郎博士が根付かせた植物学は今も進展しています。</p>	

令和5年4月～令和6年3月 いきものガイドウォーク(全10回)

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
9	23	久保 善宝	<p>テーマ：秋の七草 天候：曇 参加者：11名（FIS会員1名を含む。この他幼児1名）</p> <p>今回は、「空飛ぶ音楽祭」と重なったため、集合場所が時計塔前となった。最初に、山上憶良が詠んだ和歌2首を皮切りに、春の七草との対比、秋の七草の特徴を紹介し、そのうち公園内で見られる（下見時に確認できた）、萩、尾花（ススキ）、葛について、更に詳しく、特徴、同種間または似た種との見分け方、人との関わりなどについて解説。また、万葉集に詠まれている植物について紹介した。その後、参加者にとっての秋の七草を探そうと園内を散策しながら草花・樹木を観察し、最後に日本庭園で、コウホネ、スイレン、ヤハズススキ（タカノハススキ）を鑑賞して、解散となった。</p>	 <p>ススキ（芒、薄）</p> <p><ススキ（芒、薄）> イネ科ススキ属の植物。尾花とも言い秋の七草の一つ。かつては「茅（かや）」と呼ばれ、農家で茅葺（かやぶき）屋根の材料に用いたり、家畜の餌として利用されていた。ススキの群生地としては仙石原が有名。需要がないため、刈り取られず、草原を維持するため、野焼きをおこなっている。俳句では 秋の季語。気象庁が生物季節観測を行っている。熊谷のススキの開花日の平年値は9月19日。</p> <p><山上憶良が詠んだ1首目> 秋の野に咲きたる花を 指折（およびおり）かき数えれば 七草（ななくさ）の花</p>	 <p>クズ（葛）</p> <p><クズ（葛）> マメ科クズ属のつる性の多年草。日本では、根を用いて食材の葛粉や漢方薬が作られた。花は万葉の昔から秋の七草のひとつ。北アメリカでは日本から運ばれ、飼料作物、庭園装飾用植物、緑化・土壌流失防止として広まり、侵略的外来種に指定され、駆除が続けられている。グリーンズネイクと呼ばれている。</p> <p><山上憶良が詠んだ2首目> 萩の花 尾花 葛花 瞿麦（なでしこ）の花 姫部志剂（おみなえし）また藤袴 朝貌の花</p>	 <p>今日歩いたコースは・・・9月23日(土)</p>

令和5年4月～令和6年3月 いきものガイドウォーク(全10回)

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
10	28	展尾 毛利	<p>テーマ『散歩で見つけよう今年の秋の魅力』 天候：曇り 参加者：7名</p> <p>猛暑の影響で今年の秋は葉が緑の樹木も多く秋の代名詞ともいえる紅葉がほとんど観察できない中、秋を感じる物を捜しながら歩くことにしました。①ピラカンサの赤くなりかけた実、秋の始まりか。②夏の終わりから秋の訪れを感じるキンモクセイの匂い。③葉がまだ緑のイチヨウでしたが銀杏を沢山実らせ地面に落とした、臭い匂いの秋の訪れ。④花の丘には一面に白やピンクのコスモス(秋桜)が揺れていた。⑤ヒイラギモクセイの白い花が満開、花の形や枝への付き方はキンモクセイとそっくり。匂いはキンモクセイより控えめで優しく甘い香りでした。キンモクセイより少し遅れて秋を告げる花と匂いです。⑥時計塔よこのイチヨウ並木、うっすら黄く色づき秋の始まりか。⑦カツラの黄葉した落ち葉、香ばしい甘い香りは秋の匂い。⑧ハナミズキの紅葉と真っ赤な実、秋の象徴。モミジの真っ赤な紅葉、イチヨウの輝くような黄葉は見れませんでした。沢山の秋を見つけました。</p>	 <p>キンモクセイ モクセイ科モクセイ属 キンモクセイは中国原産の小高木で、常緑広葉樹です。香りは秋の訪れを感じさせる心地よい香りとして多くの人に知られていて、幸福感やリラックス効果をもたらすとされています。放送塔の周辺に大樹が5～6本ほどあり、強い香りを漂わせていますし、公園のあちこちの場所にキンモクセイの樹木があり、どこを歩いてもキンモクセイの香りがするように感じます。キンモクセイは甘い香りを放つジンチョウゲ、クチナシと合わせて日本三大芳香木のひとつに数えられています。キンモクセイの香りの主成分は、β-イオノン、リナロールなどです。例年だと9月頃に香り始めますが、今年は例年より遅い香り始めです。</p>	 <p>コスモス キク科コスモス属 コスモスはメキシコ原産の一年草です。茎は高さ2～3mになりよく枝を出す。葉は対生で二回羽状複葉で細かく裂け、小葉はほぼ糸状になる。頭花は径6～10cm、周囲の舌状花は白から淡紅色、あるいは濃紅色。中央の筒状花は黄色。葯は黄褐色。通常は舌状花は8個。開花期は秋で秋桜と言う和名のとおり秋の訪れを感じさせる花として知られています。コスモスと言うと一般的にオオハルシャギクのことを指します。花言葉は、ピンク色は愛情・感謝、白色は純粋・清潔です。「花の丘」でコスモスが見られます。</p>	<p>今日歩いたコースは・・・10月21日(土)</p> 

令和5年4月～令和6年3月 いきものガイドウォーク(全10回)

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
11	25	久保 佐藤	<p>テーマ：「もみじ」と「種子散布」 参加者：15名 天候：晴れ</p> <p>スタート直前に久保インストラクターからもみじとカエデの相違や語源、また様々な種子散布の方式についてかなり詳細な説明があり、その後参加者全体を「久保班」「佐藤班」の二班に分けてのガイドとなった。途中、本日のテーマ以外のものについても適時ガイドを行い、約1時間30分のガイドウォークの後、彩翔亭で解散となった。</p>	<p>紅葉するツタウルシ</p> 	<p>ケヤキの風散布</p> 	<p>今日歩いたコースは・・・11月25日(土)</p> 
12	16	渡辺 鈴木	<p>テーマ：～バード・ウォッチングのススメ～ 参加者：17名 天候：晴</p> <p>今年は暖冬のせいか冬鳥の姿もチラホラといったところで、池にいるカモの数も例年より少ない状況でしたが、遊具広場近くの梅林でアトリの群れなどが観察でき、天候にも恵まれた今年最後の観察会となりました。 ＜今回見られた主な野鳥＞ ドバト ヒヨドリ シメ シジュウカラ メジロ アトリ ツグミ マガモ</p>	 <p>ジョウビタキ♂ (ヒタキ科)</p>	 <p>シロハラ (ヒタキ科)</p>	<p>今日歩いたコースは・・・12月16日(土)</p> 

令和5年4月～令和6年3月 いきものガイドウォーク(全10回)

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
1	27	芳野 善宝	<p>テーマ：早春の花と野鳥 参加者：12名 天気：快晴</p> <p>集合場所のピラカンサを試食した後、ロウバイ園に回り、今を盛りのロウバイの花と香りを鑑賞。日本庭園では紅・白のウメと運よくウメの蜜を吸いに現れたメジロが見られた。その後梅林への道すがら、サザンカとツバキが見られたが、このウメはまだ蕾の状態であった。池では、コガモとマガモの群れ、更に運のいいことにカワセミが現れ、ヒマラヤスギの枝に止まるアオサギの姿も見られた。最後にヒイラギ(終)の花を見付けて解散となった。残念ながらこの日シジュウカラとツグミは見られなかった。</p>	 <p>満月ロウバイ</p> <p>早春の代表的な花の蠟梅。梅の蕾がようやく膨らみ始める頃、満開に成って花の少ない頃の庭園を華やかにしてくれます。</p> <p>蠟梅は中国の原産で、日本へ渡来したのは17世紀初めの江戸時代ごろとされる。庭木として広く植えられている。落葉広葉樹の低木で、高さは2-5mになる。株立ちし、樹皮は淡灰褐色で皮目が縦に並び、成長と共に浅く割れたようになる。葉は長さ10-20cmの細長い楕円形で、両端は尖る。</p> <p>蠟梅の園芸品種の代表に「満月蠟梅」と「素心蠟梅」がありますがこの区別はなかなか難しくなっています。その理由として、蠟梅は実生生産しているのが多いため花に変化が出てきてしまいます。最近では、花弁が丸弁。花色が濃く、香りが良いものを「満月蠟梅」としているようです。</p>	 <p>シジュウカラ ツグミ</p> <p>冬の寒い日、葉の落ちた木立の間を野鳥達が飛び交う姿を見るのは楽しい物です。スズメ、シジュウカラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ(冬鳥)など、公園の中を自由に飛び回っています。</p> <p>池にはマガモ、コガモが泳いでいます。冬の楽しみ「野鳥観察」を致しましょう！</p>	 <p>今日歩いたコースは・・・1月27日(土)</p>

令和5年4月～令和6年3月 いきものガイドウォーク(全10回)

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
2	24	河野 毛利	<p>テーマ：常緑樹 参加者：15名 天気：快晴</p> <p>前日は雪、開催日のみ晴天で明日から下り坂。気温は高くはないですが、無風で絶好の散歩日和となりました。</p> <p>スタート地点のカワヅザクラは、下見時は咲いていませんでしたが、当日は見ごろで参加者以外にも多くの方が撮影していました。</p> <p>落葉樹はなぜ落葉するかや、常緑樹との違いを説明、常緑広葉樹・落葉樹・常緑針葉樹の分布も簡単に説明しました。</p> <p>ヒマラヤスギの種鱗、カヤの実、タラヨウの葉を観察、郵便局のシンボルツリーとなったタラヨウの葉は、切手を貼ると配達してくれる事を伝えると盛り上がりました。最後は見ごろの梅園の前で解散となりました。</p>	 <p>サザンカ</p> <p>サザンカはツバキの仲間で、姿形もツバキとよく似ています。ツバキとの大きな違いは、開花時期が秋から冬の寒い時期であること、花が終わると花弁が一枚ずつハラハラ散ることなどです。</p>	 <p>ウメ</p> <p>中国原産の樹木で、果実は梅干し、梅酒などに利用され各地で栽培されている。果実は酸味が強く、クエン酸・リンゴ酸などの有機酸を含んでおり、風邪や疲労回復などに効果がある。ウメは冬の厳しい寒さを乗り越えて春の訪れを早く伝える植物で、「喜び」のシンボルになっている。「松」「竹」「梅」の3本の木を植えると、幸福が訪れるといわれている。</p>	 <p>今日歩いたコースは・・・2月24日(土)</p>
3	23					